

第61回社会運動ユニオニズム研究会

「連合運動の10年」

2016年5月14日
連合顧問・連合総研理事長
古賀伸明

I Prologue

II 問われる世界と日本の持続可能性

1. グローバルなリスクの拡散
2. 問われている日本社会の持続可能性
 - ①経済・社会の成熟化
 - ②超少子高齢・人口減少社会
 - ③雇用の劣化（非正規雇用の増大、過重労働など）
 - ④低所得者・格差・貧困の拡大

III 10年の連合運動

1. 「STOP THE 格差社会！」キャンペーン
2. 二度の政権交代
3. 連合結成20年
4. 東日本大震災への対応
5. 社会保障と税の一体改革
6. 運動を支え推進する基盤
 - ①地域に根ざした顔の見える運動
 - ②非正規労働センターの設立
 - ③連合会費の値上げ
 - ④1000万人連合構想
 - ⑤男女共同参画
 - ⑥人材育成・労働教育
7. 国際労働運動

IV 世界が模索する新たな枠組みのキーワード

1. 全員参加型秩序形成

2. 包摂的な成長
3. 負担の分かち合い（真の支え合い・助け合い）

V めざすべき社会像「働くことを軸とする安心社会」

1. 5つの政策理念
「連帯」「規律」「公正」「育成」「包摂」
2. 「働くこと」につながる「5つの橋」
① 教育②家庭・地域③失業④退職⑤働き方
3. 重層的なセーフティネットの構築
4. 底上げと所得再分配機能の強化
5. 厚みのある中間層を基盤とした社会の構築

VI これからの連合運動 課題と挑戦

1. 企業別組合・産業別組織・連合（ナショナルセンター）の役割と責任
2. 運動の社会化
①社会から共感を得られ、広がりのある運動に
②労働者自主福祉運動・協同組合との連携
3. 労働の尊厳に基づく労働政策
4. 技術革新への対応
5. 組織化（1000万人連合）
6. 政治との関わり
7. 国の基本政策
8. 職場・地域との対話
9. 国際労働運動への積極的参画

VII これまでの拙い経験から学んだこと

1. 「覚悟と情熱」「信頼と共感」
2. 対話・話し込み
3. 一人の人間の弱さ
4. 政策能力の強化
5. 意志決定のあり方と決断のタイミングの重要性
6. 行動・実践・アクション(Something New)
7. 「漫然と迎える未来」から「主体的に築く未来」へ

VIII Epilogue